

Microsoft Visual Studio のライセンス

発行: 2017年3月

© 2017 Microsoft Corporation. All rights reserved. この文書は "現状のまま" 提供されます。URL や参照しているウェブサイトを含むこの文書に記載されている情報や見解は、予告なく変更される場合があます。お客様が、利用するそのリスクを負うものとします。

この文書は、Microsoft 製品における知的財産のいかなる法的権利を提供するものではありません。お客様は、参考資料としてこの文書をコピーもしくは使用することができます。 Microsoft

目次

Microsoft Visual Studio のライセンス	1
発行: 2017 年 3 月	1
はじめに	5
	د
Visual Studio 2017 のライセンスの概要	5
ユーザー	5
Team Foundation Server 環境	6
Visual Studio Team Services	6
購入方法	7
Visual Studio 2017 製品と購入チャネル	
Visual Studio Community 2017	
Visual Studio Community の利用可能者	
Visual Studio サブスクリプションの更新とアップグレード	
標準サブスクリプション	
標準サブスクリプションのアップグレード オプション	
下位レベルへの更新	
クラウド サブスクリプション	
Visual Studio Team Services の購入	10
その他のチャネル	11
ユーザー ライセンス	12
プログラムの設計、開発、テスト、デモに必要なライセンス	
提供されるソフトウェアおよびダウングレード権	12
ライセンスを付与された複数のユーザーが同じソフトウェアを使用可能	
該当ソフトウェアをインストールおよび実行できる場所	13
Visual Studio サブスクライバーに提供されるその他の使用権および特典	14
Office Professional Plus 2016 の運用目的での使用	14
Visual Studio Team Foundation Server の運用目的での使用	14
Visual Studio サブスクライバー向け Microsoft Azure 月間クレジット	14
Visual Studio サブスクライバー向け Visual Studio Team Services 特典	14
クラウド使用権: サブスクライバー ソフトウェアの Microsoft Azure f	反
想マシン上での実行	15
Lab Management	16
ロード テスト	16
SQL Server Parallel Data Warehouse Developer	16
IntelliTrace	16



提供されるソフトウェアに独目の条項が適用される場合	17
プレリリース版および評価版のソフトウェア	17
SDK、DSK、Feature Pack、および Patterns & Practices のリリース	17
Windows Embedded	17
IntelliTrace コレクターと Microsoft Management Agent	17
Remote Tools	18
ライセンスがないユーザーが該当ソフトウェアを使用できるシナリオ	18
ターミナル サービスを使用したデモ	18
受け入れテスト	18
フィードバック	18
開発したアプリケーションに組み込んで特定のソフトウェアを頒布する	6方法 19
その他のガイダンス	19
"開発者のデスクトップ PC" の Windows に別個のライセンスが必	要な
場合	19
仮想環境に別個のライセンスが必要な場合	20
開発およびテスト環境の監視と管理に管理ライセンスが必要な場合	20
永続的な使用権	20
ライセンスの再割り当て	21
インストール イメージの一部としての該当ソフトウェアの頒布	21
外部ユーザー (例: ソリューション プロバイダー、受託企業、海外 センター) への Visual Studio サブスクリプションの割り当て	
マイクロソフト パートナー ネットワーク (MPN) を通した Visual Sti	udio
サブスクリプション	
プロダクト キーとインストール ソフトウェア	
サブスクライバー ダウンロードから入手したが、運用ライセンス	
るソフトウェアの使用	
ソフトウェア アクティベーション	23
Visual Studio Team Foundation Server 2017 のライセンス	24
Visual Studio Team Foundation Server 2017 の入手	
Team Foundation Server のライセンスに関する一般的なガイダンス	25
Team Foundation Server のサーバー ライセンス要件	26
サーバー ライセンスの再割り当て	26
ビルド サーバーでの Visual Studio の使用	26
Team Foundation Server のクライアント ライセンス要件	26
クライアント アクセス ライセンスが不要な状況	26
CAL 以外のライセンスも必要とするサーバー機能	27
ユーザー CAL とデバイス CAL のいずれかを選択	28
多重化やプーリングを使用しても必要な CAL 数は変わらない	28
Release Management	28
Team Foundation Server のダウングレード権	29



ソフトウェア アシュアランスが有効な Team Foundation Server	29
Visual Studio Team Services からローカルのビルド サーバーにアクヤ	セスする 29
Team Foundation Server へのアクセス方法	30
配置オプション	30
複数サーバー (2 層) 配置	30
Team Foundation ビルド サービス	31
Lab Management のライセンス	31
Lab Management のコンポーネント	32
Lab Management のライセンス	32
付録 33	
詳細情報	33
Visual Studio の評価	33
Visual Studio Express 2017 製品	33
ライセンス トレーニング環境	33
以前の Visual Studio サブスクリプションからの移行	34
Visual Studio 2015	34
Visual Studio 2013	34
Visual Studio 2012	34
Visual Studio 2010	34
Visual Studio 2008	35
Visual Studio 2005	35
ライセンス ホワイトペーパーの変更履歴	36



はじめに

Microsoft Visual Studio 2017 は、豊富で、モダンな Web アプリケーションやクラウド サービスと同様に Windows、Android、iOS 向けのすばらしいアプリケーションを作成するための統合された開発環境を提供します。また Visual Studio 2017 は非常に柔軟性が高く総合的な、アプリケーション ライフサイクル管理 (ALM) のためのツール群を提供します。Visual Studio サブスクリプションは、SQL Server、Windows、Windows Server などのマイクロソフトのプラットフォーム製品を開発とテストに使用できる権利や、Microsoft Azure を使用するための月間クレジット、Windows ストアにアプリを公開するための開発者アカウントや Office 365 の開発サブスクリプションなど開発に必要な価値ある特典が含まれます。

このドキュメントでは、Visual Studio の製品ラインと一般的な配置シナリオにおける各製品のライセンス要件について概説します。ボリューム ライセンスをご使用のお客様向けのライセンス条項と条件に関する正式なガイドは、マイクロソフト ライセンス条項およびライセンス プログラム契約書です。リテール製品を購入されたお客様向けのライセンス条項は、製品に同梱されているマイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項に規定されています。

Visual Studio 2017 のライセンスの概要

Visual Studio 2017 のライセンシングでは、ライセンスを購入する対象となるものは基本的に次の 2 つです。

- 1. ユーザー
- 2. Visual Studio Team Foundation Server 環境

さらに、チーム用に Visual Studio Team Services も購入可能で、Microsoft Azure サービスに沿った支払いとなります。

ユーザー

ユーザーにライセンスを許可する基本的な方法は、ソフトウェア開発プロジェクトに参加するユーザーごとに、適切なレベルの Visual Studio サブスクリプションを購入することです。Visual Studio サブスクリプションに含まれるソフトウェア、サービス、およびサポートは、レベルによって異なるため、Visual Studio サブスクリプションの比較表を参考に、各チーム メンバーに適したレベルを判断してください。各サブスクライバーがインストールおよび実行できる Visual Studio ソフトウェアとそのほかの Microsoft ソフトウェアについては、Visual Studio サブスクリプションのレベルごとにサブスクライバー ダウンロードで提供される内容が決められており、これらはサブスクリプションの有効期間中に限り入手することができます。

Visual Studio サブスクリプションの種類

- A. 標準サブスクリプション (Microsoft ストアおよびボリューム ライセンス リセラーを通じて販売)
 - Visual Studio Enterprise サブスクリプション (旧 MSDN)
 - Visual Studio Test Professional サブスクリプション (旧 MSDN)
 - Visual Studio Professional サブスクリプション (旧 MSDN)
 - MSDN Platforms
- B. クラウド サブスクリプション (Visual Studio Marketplace (英語) を通じて販売)



- Visual Studio Enterprise (年間プラン) (英語)
- Visual Studio Enterprise (月間プラン) (英語)
- Visual Studio Professional (年間プラン) (英語)
- Visual Studio Professional (月間プラン) (英語)

Team Foundation Server 環境

Team Foundation Server 環境は、ソフトウェア開発者、テスト担当者、プロジェクト マネージャー、その他関係者など、ソフトウェア開発チームの参加者が、コラボレーション、ソース コードの管理、作業の管理と優先順位付け、アプリケーションのビルドの生成など、さまざまな業務を行う場です。この環境に含まれるサーバーごとに Windows Server と Team Foundation Server のライセンスを購入し、さらに、これらのサーバーに接続するユーザーごとに Windows Server と Team Foundation Server のクライアント アクセス ライセンス (CAL) を購入します。Microsoft SQL Server 2016 Standard のライセンスが、Team Foundation Server と併用する目的に限り、Team Foundation Server のライセンスに含まれています。

Visual Studio Team Services

<u>Visual Studio Team Services</u> は、チームが使用できるクラウドベースのアプリケーション ライフサイクル管理および DevOps の広範囲な機能を持ち、新しい機能も追加されています。Visual Studio Team Services アカウントの作成は無料です。

また、Visual Studio Team Services アカウントには、必要な人数の利害関係者および有効な Visual Studio サブクスライバーを無料で追加できます。すべての Visual Studio サブスクライバーはアカウントの Basic 機能を利用できますが、それに加えて一部の Visual Studio サブスクライバーは Test Manager 拡張機能 (英語) や Package Management 拡張機能などの追加機能も利用できます。 Visual Studio Marketplace (英語) では、拡張機能として使用できる多くの追加機能が提供されています。また、提供されている多くの機能は無料です。

無料の利害関係者と Visual Studio サブスクライバーのほかに、アカウントには 5 人のユーザーを無料で追加でき、このユーザーはバージョン管理やアジャイル プランニングなど Basic 機能を利用できます。これらの無料の人数を超える場合は、<u>Visual Studio Team Services アカウントにアクセスする各ユーザーについて支払いが発生します(英語)</u>。また、ビルドとリリース用の <u>Hpsted Pipelines (英語)</u> と <u>Private Pipelines (英語)</u>、クラウドベースのロード テストなど、アカウント単位で使用できる追加サービスを購入 (英語) することもできます。



購入方法

Visual Studio 製品は、以下に示すようにさまざまな販売チャネルを通じて提供されます。

Visual Studio 2017 製品と購入チャネル

		Visual Studio Enterprise サブスクリ プション	Visual Studio Professional サブスクリ プション	MSDN Platforms	Visual Studio Test Professional サブスクリ プション	Team Foundation Server 2017	Visual Studio Professional 2017	Visual Studio クラウド サブスクリ プション
	Enterprise Enterprise Subscription	√	✓	✓	✓	✓		
マイクロ	Select Select	√	✓	✓	✓	✓	✓	
ソフトボリューム	Open Value Open Value Subscription	✓	✓	✓	✓	✓		
ライセンス	Open	√	✓	✓	✓	✓	✓	
	Campus Enrollment for Education Solutions	√	✓	✓	✓	✓		
リテール チャネル	Microsoft Store (オンラインのみ)	✓	✓		√	✓	✓	
Microsoft Azure	Visual Studio Marketplace							√

各マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムには、プログラムごとのルールと特典があり、お客様が内容を理解して、正しく選択できるように、ソフトウェア リセラーがサポートします。ボリューム ライセンスと上記のプログラムの詳細については、www.microsoft.com/japan/licensing をご覧ください。



Visual Studio Community 2017

Visual Studio Community 2017 は、無償ですべての機能を搭載したあらゆるプラットフォームやデバイスのエンタープライズ向けではないアプリケーション向けの IDE です。Visual Studio Community はエンタープライズ向けではないアプリケーションを作成するためのパワフルで生産性の高い機能や、Windows や iOS や Android 向けのモバイルアプリケーション開発ツールや、多数の拡張機能にアクセスすることを含んだすべての機能を保有しています。

Visual Studio Community の利用可能者

Visual Studio Community の製品使用権は以下に説明するような顧客セグメントと利用シナリオに依存します。

個人開発者

あらゆる個人開発者は Visual Studio Community を利用でき、無償または有償のアプリケーションを作成できます。

組織

- 以下のシナリオでは Visual Studio Community を利用者数に制限なく利用することができます:
 教室の研修環境、学術的調査、オープン ソース プロジェクトへの貢献
- その他のすべての利用シナリオ:

 エンタープライズではない組織において 5 ユーザーまでは Visual Studio Community を利用できます。エンタープライズ組織 (PC 台数 250 台以上または年商 100 万ドル以上) は上記の教室の研修環境、学術的調査、オープン ソース プロジェクトへの貢献以外では従業員や請負契約者ともに利用を認められません。

例 1: ある大学では Visual Studio Community 2017 を「データ構造とプログラミング」コース、および、クロス プラットフォームのモバイル アプリケーションの開発を必要する「ビッグ データ」の学術的調査プロジェクトに参加している学生の教育のために利用したいと考えている。さらにこの大学では ERP および学内基幹アプリケーションを通した自動化プロセスのカスタマイズを計画している。Visual Studio Community 2017 の利用は教室の研修環境向けの学術研究機関および学術的調査に許可されており、この大学は授業や調査プロジェクトには Visual Studio Community 2017 を利用できる。しかし、Visual Studio Community は学内基幹アプリケーションの開発やテストには利用できない。

例 2: Fortune 500 のある企業は、店舗地図モバイル アプリケーションの開発を小さな企業に委託している。このアプリケーションは、オープン ソース プロジェクトではない。この小さな企業は 5 名がこのプロジェクトに就業しており、Visual Studio Community 2017 を利用したい。この小さな企業は Fortune 500 企業のアプリケーションの開発受託者であり、かつ、このアプリケーションはオープン ソース プロジェクトではないため、この小さな企業は Visual Studio Community 2017 をアプリケーションの開発やテストに利用することができない。

例 3: Fortune 500 のある ISV は Open Source Initiative (OSI) 認定のオープン ソース ソフトウェア ライセンスで提供される モバイル アプリケーションを開発している。この ISV の従業員や請負契約者はこのアプリケーションの開発やテストにて Visual Studio Community 2017 を利用できる。



Visual Studio サブスクリプションの更新とアップグレード

標準サブスクリプション

有効期限が迫っている Visual Studio 標準サブスクリプションは、コスト効率の高い方法で更新できます。更新の場合、新しく Visual Studio サブスクリプションを購入するよりも、非常にお求めやすい価格になります。これは、お客様が支払う対象には、継続的に提供される新しいバージョンのソフトウェアと新しいプロダクト キーの入手、および有効期間中に提供される他の Visual Studio サブスクライバー特典のみが含まれ、既にお客様の手元にある Visual Studio 開発ツールについては新規のライセンスを購入する必要がないためです。

リテール製品の Visual Studio サブスクリプションは、毎年更新する必要があります。更新の猶予期間 (Visual Studio サブスクリプションの有効期限が切れてから、更新価格で更新できる期間) は 30 日間です。

ほとんどのボリューム ライセンス プログラムを通じて購入した Visual Studio サブスクリプションは、ボリューム ライセンス契約またはボリューム ライセンスの登録が終了するまで有効です。ただし、有効期限のない Select Plus (セレクト プラス) 契約は例外です。Select Plus で購入したサブスクリプションは契約日から 3 年間利用することが可能で、サブスクリプション期間の終了日を契約応答日にするオプションもあります。

どのボリューム ライセンス プログラムでも Visual Studio サブスクリプションを更新するには、ボリューム ライセンス契約で規定されている期限までに、ソフトウェア アシュアランスを更新する必要があります。こうした期限はプログラムによって異なり、契約を結んだ際の条項によって異なる場合もあります。

標準サブスクリプションのアップグレード オプション

有効な Visual Studio サブスクリプションは、更新時またはサブスクリプション期間中の任意の時点でアップグレードできます (更新時にアップグレードする場合は、以前のレベルのサブスクリプションと、そのサブスクリプションをアップグレードする "ステップアップ" ライセンスの両方を購入する必要があります)。

		アップグレード前:	Visual Studio Professional サブスクリプション	Visual Studio Test Professional サブスクリプション
		アップグレード後:	Visual Studio Enterprise サブスクリプション	Visual Studio Enterprise サブスクリプション
7 \	イセンス	Enterprise、Enterprise Subscription	•	
マイクロソフ	- 4 -	Select、Select Plus	•	
P	ボリュ	Open Value、Open Value Subscription	•	



ここにない他のプログラムではアップグレードはできませんが、ステップアップ ライセンスが提供されないリテール 製品または Open License (オープン ライセンス) をご利用のお客様は、Open Value (オープン バリュー) プログラムに 更新した直後にステップアップを購入することで、ステップアップ ライセンスを利用することができます。

下位レベルへの更新

お客様は、上位レベルの Visual Studio 標準サブスクリプションから下位レベルの Visual Studio サブスクリプション に "レベルを下げて" 更新できます (実質的には、別のライセンスに置き換えられます)。下位レベルに更新すると、お客様はそれまで使用していた Visual Studio サブスクリプションに関連付けられていたすべての権利を失うため、更新前のサブスクリプションでは提供されていても更新後のサブスクリプションでは提供されていない製品については使用を直ちに中止する必要があります。

例: ある組織では、これまで Visual Studio Enterprise サブスクリプションを開発チーム全体で使用してきました。この組織では、予算上の制約により、すべてのサブスクリプションを下位レベルの Visual Studio Professional サブスクリプションに更新することにしました。この組織がレベルを下げて更新をした時点で、サブスクライバーは直ちに Visual Studio Enterprise の使用を停止し、アンインストールする必要があります。したがって、Visual Studio Enterprise の機能のメリットは得ることができなくなります。また、サブスクライバーは、Microsoft Office、Microsoft Dynamics、SharePoint Server など、Visual Studio Enterprise サブスクリプションには含まれ、Visual Studio Professional サブスクリプションには含まれていない多くの製品を使用する権利も失います。

クラウド サブスクリプション

Visual Studio クラウド サブスクリプションは自動的に更新されます (月間プランの場合は毎月、年間プランの場合は毎年)。価格は、永続的なソフトウェア ライセンスが含まれていないので毎年同じです。毎年同じなので、「新規」または「更新」というオプションはなく、アップグレードやダウングレードの複雑な手続きもありません。単純に、月間プランであれば毎月、年間プランであれば毎年、必要なサブスクリプションを選択するだけです。

Visual Studio Team Services の購入

多くの場合、<u>Visual Studio Team Services</u> を使用するのに購入が必要になることはありません。有効な Visual Studio サブスクライバーがアカウントに参加する場合に追加の料金は発生しません。1 つの Visual Studio Team Services アカウントには 5 ユーザーが無料で含まれています。また、1 つのアカウントに追加できる利害関係者の人数に制限はありません。さらに、一部の追加サービス(ビルドとリリース用の Hosted Pipelines と Private Pipelines、クラウドベースのロード テストなど)はアカウントごとに無料で利用できます。

Visual Studio Team Services の支払いは、Microsoft Azure 経由で行います。Visual Studio Team Services は、既にすべての料金が含まれている Azure サービスの集合であるため、Visual Studio Team Services のアカウントに使用されるインフラ (仮想マシン、ストレージ、帯域など) の費用を支払う必要はありません。

Team Services を購入するには、Azure サブスクリプションを作成する必要があります (まだ作成していない場合)。 Azure サブスクリプションでは、クレジット カードか請求書払いかの支払い条件を指定できます。



その他のチャネル

一部の Visual Studio 製品は、その他のマイクロソフト プログラムを通じて購入することもできます。このようなプログラムには、次のようなものがあります。

- サービス プロバイダー ライセンス アグリーメント (SPLA) (英語): Visual Studio Team Foundation Server、Visual Studio Enterprise、Visual Studio Professional、Visual Studio Test Professional は、SPLA に加入しているホスト型 ソリューションのパートナー企業からサブスクリプション ベースで提供されます。パートナー企業は自社のハードウェア上で実行するソフトウェアを、ユーザーヘリモート接続で提供します。これは Visual Studio サブス クリプションのサービスではありません。SPLA の使用条件については、『Microsoft サービス プロバイダー製品使用権説明書』(SPUR) をご覧ください。
- マイクロソフト ISV Royalty ライセンスプログラム: Visual Studio などのマイクロソフト製品を自社ソフトウェアアプリケーションに組み込んでお客様に販売することをお考えの ISV パートナー様向けのプログラムです。

また、以下に示す特定のマイクロソフト プログラムでは、Visual Studio サブスクリプションまたは Visual Studio が プログラム特典として提供されます。

- マイクロソフト パートナー ネットワーク: 1 つ以上のコンピテンシーを保有するパートナーは、エンド ユーザーに割り当てる必要のある Visual Studio Enterprise サブスクリプションを入手でます。Visual Studio サブスクライバーはソフトウェアの利用前にアクティベーションをしなければなりません。それらのサブスクライバーは MSDN サブスクリプション再販禁止版 (NFR 版) の使用許諾に従ってソフトウェアを使用できます。マイクロソフト パートナー ネットワーク経由で提供されるソフトウェアは、報酬として直接的な収益を生み出す活動 (コンサルティング サービスの提供、パッケージ アプリケーションの特定の顧客向けのカスタマイズ、特定の顧客向けのカスタム アプリケーションの構築など) には使用できません。パートナー様が、マイクロソフトプラットフォームでパッケージ アプリケーションを構築後、それを市場に投入して、顧客に販売するといった、間接的に収益を生み出す活動には使用できます。
- Microsoft BizSpark: Microsoft BizSpark は、ソフトウェア事業の立ち上げを支援するグローバルプログラムです。このプログラムでは、マイクロソフトのソフトウェア開発ツールにアクセスできるようにし、投資家などの主要業界関係者とのつながりを確立して、起業家が事業を立ち上げるのに役立つマーケティング資料を提供します。BizSpark を通じて提供される Visual Studio Enterprise サブスクリプションは、MSDN サブスクリプション再販禁止版 (NFR 版)の使用許諾が適用されます。
- Microsoft Imagine (旧称 DreamSpark): このプログラムでは、教育での使用 (指導、授業、商用目的以外の研究など)を目的として、教育機関の学生、教員、および職員に、教育機関あたり低価格でツールを提供します。マイクロソフト ボリューム ライセンスの Campus Agreement (キャンパス アグリーメント)/EES および OVS/ES プログラムに参加している教育機関は、追加料金なしで DreamSpark のオンライン サブスクリプションを入手できます。Microsoft Imagine を通じてライセンスを取得できるソフトウェアには、Visual Studio Professional、Windows Server、SQL Server などがあります。また、高等教育機関の科学、テクノロジ、エンジニアリング、および数学 (STEM: Science, Technology, Engineering, and Math) の各学科は、さまざまなマイクロソフト製ソフトウェアを提供している Microsoft Imagine サブスクリプションを利用できる場合があります。Microsoft Imagine サブスクリプションの特典を利用するには、教育機関の担当者がアカデミック ボリューム ライセンス



契約番号と、アカデミック ボリューム ライセンス サブスクリプションの登録完了メールに記載された適切な Microsoft Imagine プロモーション コードを使用して、https://catalog.imagine.microsoft.com/ja-jp/Institutions/Enroll で登録を行う必要があります。Microsoft Imagine サブスクリプションを所有していない教育機関の学生でも無償で利用できるソフトウェアについては、Microsoft Imagine サイト (https://imagine.microsoft.com/ja-jp/account) で確認することができます。

特定の Visual Studio サブスクリプションの使用権の追加または除外については、各プログラムの条項をご覧ください。

ユーザー ライセンス

プログラムの設計、開発、テスト、デモに必要なライセンス

すべての Visual Studio サブスクリプションと Visual Studio Professional は、ユーザー単位にライセンスが付与されます。ライセンスが付与された各ユーザーは、プログラムの設計、開発、テスト、デモ目的で任意の数のデバイスにソフトウェアをインストールして使用できます。また Visual Studio サブスクリプションは、ソフトウェアを評価する目的や開発したプログラムに関する問題を調査するためにエンドユーザーの環境を再現する目的に使用することができます。この方法でソフトウェアを使用するユーザーが追加された場合、そのユーザーにも新たにライセンスが必要です。

提供されるソフトウェアおよびダウングレード権

Visual Studio サブスクリプションで提供されるソフトウェアとは、ユーザーのサブスクリプションの有効期間内にサブスクライバー ポータルからサブスクライバーが入手できるソフトウェアです。また、それらのソフトウェアの旧バージョン (サブスクライバー ポータルで提供されていないレガシ バージョン) へのダウングレード権も提供されます。Visual Studio サブスクリプションには、現バージョンのソフトウェアと、10 年以上前のソフトウェアも含め多数の旧バージョンが含まれるほか、多くの場合同一製品の複数のエディション (Standard、Enterprise、Datacenter など) も提供し、さまざまなソフトウェア開発やテストのシナリオをサポートします。さらに、Visual Studio サブスクライバーは定期的に、ソフトウェアの新しいバージョンがリリースされた時点で新しいバージョンを利用できます。

どなたでもサブスクライバー ポータルにアクセスして、特定のダウンロードを検索し、詳細をクリックしてダウンロードの公開日とそのダウンロードを利用できるサブスクリプション レベルを確認できます。サブスクライバーでなくてもこの情報は確認できますが、ダウンロードするにはサブスクライバーである必要があります。各 Visual Studio サブスクリプションに含まれるソフトウェアの全体像を把握するには、サブスクリプションの比較表を参照してください。

Visual Studio Professional 2017 単独のライセンスには、現バージョンの Visual Studio Professional 2017 を使用する 権利と、Visual Studio Professional の旧バージョンのダウングレード権が含まれ、それぞれを同時に実行することが できます。

この「ユーザー ライセンス」セクションでは、ライセンスに含まれるソフトウェアを「該当ソフトウェア」と表記します。



ライセンスを付与された複数のユーザーが同じソフトウェアを使用可能

該当ソフトウェアを使用 (インストール、構成、またはアクセス) する開発チームの全メンバーが、各自 Visual Studio サブスクリプションを所有している必要があります。それぞれが Visual Studio サブスクリプションを所有している場合、複数のユーザーが同じソフトウェアを使用することができます。

例 1: 開発チームは、ソフトウェア開発者 6 人、アーキテクトの役割を兼任している開発者 1 人、およびテスト担当者 3 人で構成されています。このチームは Web ベースの社内会計システムを構築しており、該当ソフトウェアを使用して、Windows Server 2012 と Microsoft SQL Server 2014 が稼働するテスト環境を構築する必要があります。10 人のチーム メンバー全員が開発またはテストの環境にアクセスする場合、すべてのメンバーが Visual Studio サブスクリプションを所有している必要があります。これらの製品が両方含まれる最低限のサブスクリプション レベルは、Visual Studio Professional (年間プラン)、Visual Studio Professional サブスクリプション、および Visual Studio Test Professional サブスクリプションです。

例 2: 組織には 2 つの開発チームがあり、一方のチームはシアトル、もう一方のチームはシンガポールを拠点としています。時差があるため、この 2 チームが同時に作業することはありません。しかし、Visual Studio サブスクリプションのライセンスは共有できないため、各拠点の全チーム メンバーは、各自 Visual Studio サブスクリプションのライセンスを所有している必要があります。

例 3: 組織の IT 部門のシステム エンジニアが、一元管理されたハードウェアに、開発チームに必要なソフトウェアをインストールします。この開発チームの各メンバーには、Visual Studio サブスクリプションのライセンスが付与されています。このシステム エンジニアは、ソフトウェアの開発やテストは行いません。しかし、マイクロソフトソフトウェアを使用することになるため(インストールはソフトウェアの使用と見なされます)ライセンスが必要となり、この環境で使用されるすべてのソフトウェアが対象になる運用ライセンスを取得するか、システム エンジニアがインストールする該当ソフトウェアを含む Visual Studio サブスクリプションをシステム エンジニア用に取得する必要があります。

該当ソフトウェアをインストールおよび実行できる場所

ライセンスが付与されたユーザーは、任意の数のデバイスにソフトウェアをインストールして使用できます。該当ソフトウェアは、職場、自宅、学校、さらには客先のデバイスやサードパーティがホストする専用ハードウェアにインストールできます。特定のものを除くほとんどのサブスクライバー ソフトウェアは Microsoft Azure の仮想マシン上で実行することができます。それ以外は、該当ソフトウェアは運用環境での使用は認められません。

運用環境とは、アプリケーション (インターネット Web サイトなど) のエンド ユーザーがアクセスし、アプリケーションのユーザー受け入れテスト またはフィードバック以外の目的で使用する環境です。これ以外にも、次のような環境は運用環境に含まれます。

- 運用データベースに接続する環境
- 運用環境の障害復旧やバックアップをサポートする環境
- 処理ピーク時に交代で運用環境に組み込まれるサーバーなど、少なくとも一時的に運用目的で使用する環境

例: Visual Studio サブスクリプションを所有している開発者は、日中は職場でサブスクライバー ソフトウェアを使用していますが、自宅で別のコンピューターを使用して開発しなければならないこともあります。Visual Studio サブスクリプション ライセンスの下では、職場の PC と自宅の PC に違いはありません。自宅の PC は、開発者がサブスクライバー ソトウェアを使用する権利のある別のデバイスに過ぎません。

ただし、開発者の自宅の PC で実行しているサブスクライバー ソフトウェアに対する制約は、職場の環境と同じです。つまり、自宅の PC にインストールされたサブスクライバー ソフトウェアは、設計、開発、およびテスト目的



以外に使用することはできず、他のユーザーは適切な Visual Studio サブスクリプションを所有している場合にのみ、自宅の PC にインストールされたサブスクライバー ソフトウェアを使用できます。

Visual Studio サブスクライバーに提供されるその他の使用権および特典

Office Professional Plus 2016 の運用目的での使用

Visual Studio Enterprise サブスクリプションまたは Visual Studio Enterprise (年間プラン) のライセンスが付与された ユーザーは、1 つのデバイスで Office Professional Plus 2016 を運用目的で使用することができます。

Visual Studio Team Foundation Server の運用目的での使用

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、Visual Studio Test Professional サブスクリプション、MSDN Platforms、およびすべての Visual Studio クラウド サブスクリプションには、Visual Studio Team Foundation Server 2017 のサーバー ライセンスとクライアント アクセス ライセンスが 1 つずつ付属しています。詳細については、Visual Studio Team Foundation Server 2017 のライセンスに関するセクションを参照してください。

Visual Studio サブスクライバー向け Microsoft Azure 月間クレジット

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、MSDN Platforms、Visual Studio Test Professional サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、Visual Studio Professional (年間プラン) サブスクリプションには、Microsoft Azure サービスで使用できる月間クレジットが含まれます。利用できる内容は異なり、提供されるサービスの金額は変更される可能性があるため、詳細については

http://www.windowsazure.com/ja-jp/pricing/member-offers/msdn-benefits/ を参照してください。Visual Studio サブスクライバーがこれらのサービスを使用するには、サインアップし、Microsoct Azure 契約に同意する必要があります。すべての特典の利用目的は開発とテストの目的に限られ、Visual Studio サブスクライバーは運用目的のアプリケーションを実行することはできません。また、複数の Visual Studio サブスクリプションの Azure 月間クレジットを 1 つのアカウントにまとめることはできません。

Visual Studio サブスクライバー向け Visual Studio Team Services 特典

有効なサブスクリプションを持つすべての Visual Studio サブスクライバー (標準とクラウドの両方) は、追加費用なしで <u>Visual Studio Team Services</u> のアカウントを作成するか、アカウントに参加することができます。また、Visual Studio サブスクライバーは、以下の拡張機能も追加費用なしでご利用いただけます。

Team Services 拡張機能	Visual Studio サブスクリプションに含まれる
Test Manager (英語)	Visual Studio Enterprise (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual
	Studio Enterprise (年間プランまたは月間プラン)
	Visual Studio Test Professional サブスクリプション
	MSDN Platforms



<u>Package Management</u> (英語)

Visual Studio Enterprise (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プランまたは月間プラン)

クラウド使用権: サブスクライバー ソフトウェアの Microsoft Azure 仮想マシン上での実行

有効なサブスクリプションを持つ Visual Studio サブスクライバーは、Microsoft Azure 上の仮想マシンで、ほとんどのサブスクライバー ソフトウェアを使用することができます。クラウド使用権は、開発するソフトウェアの設計と開発、テスト、デモンストレーションの用途に限られます。このクラウド使用権は、Windows クライアントと Windows Server を除き、そのユーザーの Visual Studio サブスクリプションに含まれる Visual Studio とそれ以外のすべてのソフトウェアに適用されます。開発とテスト用に使用する Azure 仮想マシンにアクセスするためのリモートデスクトップ サービス (RDS) のライセンスは不要です。

Visual Studio サブスクリプションのアクティベーションとは、ライセンスを使用するユーザーの Microsoft アカウント、職場アカウント、または学生アカウントのログインと Visual Studio サブスクリプションの関連付けをすることです。サブスクライバー ダウンロードおよび Azure 月間クレジットなどのサブスクライバー特典を使用するためにはアクティベーションが必要です。

Visual Studio クラウド使用権には Windows Server や Windows クライアントは含まれていないため、Visual Studio サブスクライバーはサービス提供されている Windows Server や Windows クライアントの仮想マシンを実行することはできますが、それらの仮想マシンの実行に伴う料金は支払う必要があります。Windows Server 仮想マシンは Azure や他の多くのプロバイダーから提供されています。Windows クライアント仮想マシンは Azure 上で有効な Visual Studio サブスクライバー (すべての標準サブスクリプションと、年間プランのクラウド サブスクリプション) 限定で提供され、Visual Studio サブスクライバー向け Azure 月間クレジット、もしくは開発/テスト用重量課金制プランまたは Enterprise 開発/テスト用プランを使用してセットアップした Azure サブスクリプションのチームでのみ使用できます。

例 1: チームの開発者 5人が異なるレベルの Visual Studio サブスクリプションを持っています。3 人は Visual Studio Enterprise サブスクリプションで残りの 2 人は Visual Studio Professional サブスクリプションです。Visual Studio Enterprise サブスクリプションを持つチーム メンバーの 1 人が、チームの開発環境として開発/テスト用重量課金制プランを使用して Microsoft Azure サブスクリプションをセットアップしました。このチーム メンバーは、Visual Studio Enterprise サブスクリプションのチーム メンバーが使用する開発とテストのための Microsoft SharePoint Server の仮想マシンのデプロイをしました。この場合、他の Visual Studio Professional サブスクリプションしか持たない 2 人のチームメンバーは、そのレベルのサブスクリプションには SharePoint Server の使用権がないためにこの仮想マシンを使用することはできません。

例 2: Visual Studio Professional サブスクリプションのライセンスを持つ開発者が、データベース アプリケーションの新しいストアド プロシージャを開発するために、Micros oft Azure が実行する仮想マシンに SQL Server をデプロイしました。業務を行っている間に Visual Studio サブスクリプションが期限切れになりました。この場合、サブスクリプションの期限が切れてしまったので、Visual Studio クラウド使用権も期限切れになるためにこの仮想マシンの SQL Server を使用した開発も中止しなければなりません。

例 3: Visual Studio Enterprise サブスクリプションのライセンスを持つ開発者が、データベース アプリケーションの新しいストアド プロシージャを開発するために、Azure 環境の仮想マシン上に Visual Studio と SQL Server の展開をしました。Azure の仮想マシン上で Visual Studio を使用してコーディングをすることは、クラウド利用権で認



められています。この開発者は追加の RDS CAL ライセンスを追加購入しなくてもその仮想マシンにアクセスすることができます。開発者はメールをするために Office を、他の開発者とコミュニケーションをするために Lync をインストールしたいと考えました。しかしこれは運用利用であって、開発者自身のソフトウェアの設計と開発、テスト デモンストレーションに限られる Visual Studio サブスクリプションには含まれないため、メールをするために Outlook を使用したり他者とコミュニケーションするために Lync を使用することは、この仮想マシンでは認められません。

Lab Management

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、MSDN Platforms、および Visual Studio Test Professional サブスクリプションのサブスクライバーは、Microsoft Test Manager を使用するラボの作成、配置、および管理をする目的で System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) をインストールし、実行できます。ラボ環境とは、プログラムの開発とテストのみを目的として使用する仮想オペレーティング システム環境です。仮想化された運用サーバーの管理など、その他すべての運用目的に SCVMM を使用する場合は、別途管理ライセンスが必要です。Test Controller 2013 が付属する Visual Studio Agents 2013 も、このシナリオで使用するためにこれらのサブスクリプション レベルに含まれます。SCVMM と Team Foundation Server は、個別に SQL Server ライセンスを購入する必要なく、同じ SQL Server データベースを共有できます。

ロード テスト

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、および Visual Studio Enterprise (月間プラン) のサブスクライバーは、該当ソフトウェアを使用して、任意の数の仮想ユーザーを対象にロード テストを実行できます。これには、運用環境で実行するロード テストも含まれます。

SQL Server Parallel Data Warehouse Developer

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、Visual Studio Professional サブスクリプション、Visual Studio Test Professional サブスクリプションには、SQL Server Parallel Warehouse Developer のライセンスも含まれます。このソフトウェアの実行に必要な Parallel Data Warehouse アプライアンスは、OEM から販売されます。

IntelliTrace

IntelliTrace を使うと、アプリケーションの実行状態を記録および再生でき、デバッグに便利です。この機能を使用するには、IntelliTrace 診断データ アダプター (DDA) を Visual Studio Test Agent の一部として対象システムに配置するか、IntelliTrace.exe コマンド ライン ユーティリティを配置するか、Microsoft Test Manager を使用してテストを実行します。 Microsoft Test Manager は、Visual Studio Test Professional および Visual Studio Enterprise のソフトウェアインストールに含まれています。

IntelliTrace DDA または IntelliTrace.exe を実行して出力される IntelliTrace ファイルは、Visual Studio Enterprise を使用しないとファイルを開いてデバッグに使用できません。IntelliTrace ファイルは、複数の企業間で共有できます。たとえば、企業は IntelliTrace ファイルを社外の開発コンサルタントと共有できます。同様に、外部企業にテスト作業を委託して、この企業から提供された IntelliTrace ファイルをデバッグに使用できます。

例 1: テスト環境での障害検出



企業 A では、Web アプリケーションを構築しています。すべての開発者には Visual Studio Enterprise サブスクリプションのライセンスが付与されており、テスト担当者には Visual Studio Test Professional サブスクリプションのライセンスが付与されています。テストの実行中に、開発環境では再現が難しい障害がテスト環境で検出されました。テスト マシンは、事前に Visual Studio Test Agent で構成されており、これには IntelliTrace DDA が付属しています。テスト担当者は Microsoft Test Manager (Visual Studio Test Professional および Visual Studio Enterprise の機能)を使用し、IntelliTrace 診断データ アダプター (DDA) を有効にして、テスト ケースを実行できます。障害が発生すると、テスト担当者が新しいバグを記録し、このバグには各テスト マシンの IntelliTrace ファイルが自動的に添付されます。開発者が Visual Studio Enterprise を使用してバグを開く場合は、IntelliTrace ファイルを開いて、問題のデバッグに使用できます。

例 2: 社外コンサルタントとの共同作業

例 1 の企業 A は、社外コンサルタントから開発の支援を受けています。社外コンサルタントに Visual Studio Enterprise のライセンスが付与されていれば、このコンサルタントは企業 A から提供された IntelliTrace ファイルを開いてデバッグできます。

提供されるソフトウェアに独自の条項が適用される場合

プレリリース版および評価版のソフトウェア

Visual Studio サブスクリプションでは、プレリリース版および評価版のマイクロソフトのソフトウェア製品を使用できます。ユーザーの Visual Studio サブスクリプションの一部としてソフトウェアが提供されている場合、そのソフトウェアを任意の数のデバイスにインストールして使用できます。

ただし、サブスクライバー ダウンロードを通じて提供されるプレリリース版や評価版のソフトウェアには、その製品 付属のライセンス条項が適用されます。

SDK、DSK、Feature Pack、および Patterns & Practices のリリース

Visual Studio サブスクリプションには Software Development Kits (SDK)、Driver Development Kits (DDK)、Visual Studio Features Pack、および Patterns & Practices への利用も含まれます。これらには、製品付属のライセンス条項が適用されます。

Windows Embedded

Windows Embedded 製品には、製品固有の使用許諾契約書 (EULA) によって規定される、追加のソフトウェア ライセンス条項があります。Windows Embedded ソフトウェアは、業務運用に使用すること、または Windows Embedded ソフトウェアを商業目的での配布 (Windows Embedded ソフトウェアのライセンス供与、リース、または販売、製品に組み込み評価目的での顧客への配布、商用製品と連携する目的での配布など) に使用することはできません。商業目的で Windows Embedded ソフトウェアを配布するには、追加の手順 (英語) を実行する必要があります。ライセンス、認定、および配布要件については、Microsoft Embedded 正規販売代理店がご案内します。

IntelliTrace コレクターと Microsoft Management Agent

IntelliTrace コレクター (Visual Studio 2012 の製品ラインから提供) と Microsoft Management Agent (Visual Studio 2017 の製品ラインから提供) は無料ダウンロードとして提供されます。IntelliTrace コレクターと Microsoft Test Agent は、運用環境内のコンピューターを含む、複数台のコンピューターにインストールして、アプリケーションの



問題のデバッグに使用できる履歴ログを収集できます。IntelliTrace コレクターと Microsoft Management Agent を使用するにあたっては、製品付属のライセンス条項が適用されますが、IntelliTrace コレクターの出力は、Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、および Visual Studio Enterprise (月間プラン) のサブスクライバーしか参照できません。

Remote Tools

<u>Visual Studio Remote Tools</u> (旧称: Remote Debugger) には、製品に付属しているライセンス条項が適用されます。 Remote Tools は運用環境で使用し、リアルタイムでアプリケーションをデバッグできます。

ライセンスがないユーザーが該当ソフトウェアを使用できるシナリオ

ターミナル サービスを使用したデモ

すべての Visual Studio サブスクリプション (ただし、クラウド サブスクリプションの月間プランを除く) では、Windows Server リモート デスクトップ サービスを使用して、開発されたプログラムのオンライン デモへ同時に最大 200 人の匿名ユーザーがアクセスすることができます。これらの匿名ユーザーは、Visual Studio サブスクリプションを所有している必要はありません。そして、Visual Studio サブスクライバーはリモート デスクトップ サービスを、サブスクリプションに含まれる他のソフトウェアと同様に開発およびテストに使用できます。

受け入れテスト

通常、ソフトウェア開発プロジェクトの最終段階では、エンド ユーザー (もしくは、特に実際のエンド ユーザーがプログラムへのアクセスが不可能であるケースでは、エンド ユーザーの代わりを務めるチーム メンバー、契約の発注元、プロジェクト マネージャーなど) がアプリケーションを確認して、アプリケーションがリリースの必要条件を満たしているかどうかを判断します。この作業は、ユーザー受け入れテスト (UAT: User Acceptance Test) と呼ばれることがあります。Visual Studio サブスクリプションを所有していないエンド ユーザーも、受け入れテスト目的で該当ソフトウェアにアクセスできます (ただし、その他の点では、ソフトウェアの用途がすべての Visual Studio サブスクリプションのライセンス条項に従っている必要があります)。設計、開発、テストを主な役割とする担当者が "エンドューザー" の代わりとなって、受け入れテストを行うことはめったにありません。

受け入れテストには、実際の運用データは使用できないことになっています。実際の運用データの "コピー" を使用した場合は、使用したデータのコピーは、テスト完了後に破棄する必要があり、実際の運用データに再度組み入れることはできません。

フィードバック

エンド ユーザーは、無料の Feedback Client for TFS をダウンロードし、該当ソフトウェアにアクセスしてアプリケーションをレビューし、フィードバックを提供できます。 Visual Studio サブスクリプションがなくても、エンド ユーザーは該当ソフトウェアにアクセスして、フィードバックを提供できます。 ただし、アプリケーションのテストには Visual Studio サブスクリプションが必要になるため、テストを行うことはできません。



開発したアプリケーションに組み込んで特定のソフトウェアを頒布する方法

Microsoft .NET Framework などのソフトウェアは、頒布することができます。

Visual Studio サブスクリプションで提供されるソフトウェア製品のうち、ロイヤルティなしで(アプリケーションに含めるか個別のファイルとして)頒布できるコンポーネントについては、製品に関連付けられている REDIST.TXT ファイルを参照してください。マイクロソフト以外のプラットフォームに頒布できるコンポーネントについては、製品に関連付けられている OTHER-DIST.TXT ファイルを参照してください。.lib という拡張子の頒布可能なコンポーネントとして指定されたコードは直接頒布することはできず、このコードはアプリケーションにリンクした形で頒布する必要があります。ただし、そのコードの出力結果は頒布できます。

また、次の行為も可能です。

- "sample" または "Code Snippet" と指定されているコードのソース コードとオブジェクトを改変および頒布
- アプリケーションの .msi ファイルで使用する目的で Microsoft Merge Modules の出力を改変せずに頒布
- コア データ アクセス コンポーネント (Microsoft SQL Server OLE DB プロバイダー、ODBC ドライバーなど) を 含む MDAC_TYP.EXE ファイルを頒布
- C++ ライブラリ (Microsoft Foundation Classes、Active Template Library、および C ランタイム) のオブジェクト バージョンを頒布

頒布できるコンポーネントと適用される制約の完全な一覧については、『Microsoft 製品使用権説明書』(PUR) の「共通の使用条件」で「再頒布可能コード」を参照するか、リテール Visual Studio サブスクリプションに関する『マイクロソフトソフトウェアライセンス条項 (EULA)』の「再頒布可能コード」をご覧ください。

その他のガイダンス

"開発者のデスクトップ PC" の Windows に別個のライセンスが必要な場合

ほとんどの場合、メイン PC (または複数の PC) は、プログラムの設計、開発、テスト、およびデモ (Visual Studio サブスクリプションのライセンスの下で許可されている用途) だけでなく、他の用途にも使用されるため、各 PC で使用する Windows は Visual Studio サブスクリプションではない個別のライセンスが付与されていなければなりません。他の用途とは、メールをする、ゲームをする、ドキュメントを編集するなど、他の方法でソフトウェアを使用することを指し、このような用途は Visual Studio サブスクリプションのライセンスでは許可されません。このような許可されていない用途にも使用する場合、基盤となるオペレーティング システムは、通常、Windows の正規のコピー (新しい OEM PC に付属するコピーなど) を購入して、ライセンスを取得する必要がありあます。

例: Visual Studio Enterprise サブスクリプションを所有する開発者が、予備のハードウェアを使用して PC を組み立て、これをアプリケーションの開発とテストに使用するとします。この開発者は、プロジェクトのスケジュールを管理するために、この PC に Project Professional 2013 のコピーをインストールします (ライセンスは別途取得します)。これは、Project の通常の運用目的での使用です。Project を運用目的に使用していることから、この PC は複数の用途に使用されていることになり、Project を実行する Windows オペレーティング システムには標準の製品ライセンスが必要になります。この PC で使用する Windows のライセンスにこの開発者の Visual Studio ライセンスを適用することはできません。



仮想環境に別個のライセンスが必要な場合

1 つ以上の仮想マシンが実行されている物理コンピューターを開発とテスト専用に使用している場合、その物理ホストシステムには、サブスクライバー ソフトウェアのオペレーティング システムをインストールできます。ただし、物理コンピューター、または物理システムでホストされているいずれかの VM が他の目的で使用される場合は、本番環境 VM のオペレーティング システムと物理ホストのオペレーティング システムの両方に別途ライセンスを取得する必要があります。これは、システムで使用する他のソフトウェアについても同様です。たとえば、サブスクライバーソフトウェアとして取得した Microsoft SQL Server は、プログラムの設計、開発、テスト、およびデモの目的にしか使用できません。

開発およびテスト環境の監視と管理に管理ライセンスが必要な場合

開発またはテスト環境で実行されているコンピューターの監視または管理に、Microsoft System Center が使用されることがよくあります。これは、System Center の通常の使用にあたり、通常の System Center 管理ライセンスが必要です。この管理ライセンスは、別途取得する必要があります。このようなマシンの監視および管理という用途での使用は、Visual Studio サブスクリプションでは許可されません。System Center エージェントの開発およびテスト用コンピューターへのインストールは、ライセンスが付与されている Visual Studio サブスクライバーによって実行される必要がありますが (オペレーティング システムも含めて該当ソフトウェアをなんらかの形で使用する場合、ライセンスが必要なため)、System Center のオペレーターは、Visual Studio サブスクリプションがなくてもこれらのコンピューターをリモートで監視できます。

また、System Center を含む Visual Studio サブスクリプションの場合、サブスクライバーは System Center を使って、プログラムの設計、開発、テスト、デモを行うことができます。

例 1: ある会社では System Center Operations Manager を使用して、運用データセンターで実行されているサーバーと、開発およびテスト用ラボ環境として実行されているサーバーの両方を管理しています。開発およびテスト チームのメンバーは、一人ひとりが Visual Studio サブスクリプションを保持しています。このチームのメンバーは、System Center エージェントのインストールを含め、開発およびテスト ラボ内でのすべてのソフトウェア インストールを実行する必要があります。これは、この環境内で実行されるソフトウェアのライセンスはユーザー単位であり、この使用を認める Visual Studio サブスクリプションを保持しているのは開発およびテスト チームのメンバーしかいないためです。インストールが完了すると、Visual Studio サブスクリプションを持たない通常の System Center のオペレーターが、System Center を使用してこれらのサーバーをリモートで監視および管理できるようになります。

例 2: ある ISV が、System Center が公開する API を介して Microsoft System Center Operations Manager にクエリを送り、カスタマイズ レポートを生成するアプリケーションを作成しています。これは開発にあたるため、System Center ソフトウェアが含まれている Visual Studio Enterprise サブスクリプションまたは Visual Studio Enterprise (年間プラン) のサブスクライバーは、この作業が可能です。

永続的な使用権

特定のチャネルから購入された Visual Studio サブスクリプションでは永続的な使用権が提供されるため、サブスクライバーが有効な期間にサブスクリプションを通じて取得したソフトウェア製品は、サブスクリプションの有効期限が切れた後も使用し続けることができます。ただし、サブスクライバーには、サブスクリプションの有効期限が切れた



後に、そのソフトウェアの更新プログラムを利用する権利はありません。また、サブスクライバー ダウンロードを通じてソフトウェアやプロダクト キーにアクセスしたり、有効なサブスクリプションの特典として提供されている他のサブスクリプション サービスにアクセスしたりすることもできません。サブスクリプションの有効期間内に取得したプロダクト キーは、そのキーのライセンス認証をすべて使い果たすまで使用し続けることができます。Visual Studioサブスクリプションを譲渡または売却すると、永続的な使用権が新しい所有者に移るので、元の所有者はそのソフトウェアを使用できなくなります。

通常、次の Visual Studio サブスクリプションでは、永続的な使用権は提供されません。

- Visual Studio クラウド サブスクリプション
- Enterprise Subscription Agreement (エンタープライズ サブスクリプション アグリーメント)、Open Value Subscription (オープン バリュー サブスクリプション)、Campus Agreement (キャンパス アグリーメント)、またはその他のサブスクリプション向けボリューム ライセンス プログラムを通じて購入した Visual Studio サブスクリプション
- マイクロソフト パートナー ネットワークからコンピテンシー パートナーおよびマイクロソフト アクション パック パートナーに提供される Visual Studio サブスクリプション

このようなサブスクリプションでは、有効期限が切れると、ユーザーは Visual Studio サブスクリプションを通じて提供されたいずれのソフトウェアも使用できなくなります。

ライセンスの再割り当て

チーム メンバーがチームを離れる場合など、Visual Studio サブスクリプションまたは Visual Studio Professional 単独のライセンスを別のユーザーに再割り当てすることができますが、リテールおよびボリューム ライセンス チャネルからの購入の場合は、前回の割り当てから 90 日以内は再割り当てすることができません。

インストール イメージの一部としての該当ソフトウェアの頒布

物理コンピューターまたは仮想マシンのイメージを使用すると、クライアント コンピューターやサーバー コンピューターをすばやく簡単にセットアップできます。ただし、イメージの作成に該当ソフトウェアを使用し、そのソフトウェアのライセンスが、リテール チャネルから購入した Visual Studio サブスクリプションを通して付与されている場合、作成したインストール イメージを他の人に頒布することはできません。この制約は、イメージをインストールしたり使用したりする頒布先ユーザーが、インストール イメージに含まれる該当ソフトウェアに適した Visual Studio サブスクリプションを所有している場合にも適用されます。もちろん、Visual Studio サブスクリプションを所有しているユーザーが、サブスクライバー ダウンロードから直接ソフトウェアをダウンロードして、自身が使用するインストール イメージを作成することは可能です。

組織がボリューム ライセンス プログラムを通じて Visual Studio サブスクリプションを入手した場合、同じ組織内に限って (組織に勤務し、組織で利用可能な Visual Studio サブスクリプションのライセンスを一時的に割り当てられた外部ユーザーも含め)、適切な Visual Studio サブスクリプション レベルのライセンスが付与されたユーザーにインストール イメージを頒布できます。異なる組織へのソフトウェアの再頒布は、物理コンピューターや仮想マシンのイメージ、DVD、および ISO ファイルを含め、どのような形でも許可されません。



例: 企業 A は企業 B に作業を委託しています。委託業務の一環として、テスト サーバー環境にマシンを配置するためのイメージを作成する必要があります。企業 B の従業員はマイクロソフト ソフトウェアを企業 A の従業員に頒布できないので、作業済みのイメージを企業 B から企業 A に受け渡すには、次のいずれかの方法を使用する必要があります。

- 企業 A で、予備の (割り当てられていない) Visual Studio サブスクリプションを、イメージを作成する企業 B の従業員に割り当てます。これにより、ソフトウェアを同じ組織内で譲渡できます (この方法は、サードパーティへのマイクロソフト ソフトウェアの頒布ではありません)。
- 企業 B から企業 A に対してイメージの作成方法を指示し、企業 A の社内でイメージを作成します。

外部ユーザー (例: ソリューション プロバイダー、受託企業、海外開発センター) への Visual Studio サブスクリプションの割り当て

組織で、開発チームのメンバーとして作業する外部ユーザーを雇用した場合、その外部ユーザーは、使用するすべての該当ソフトウェアに対応した Visual Studio サブスクリプションを所有している必要があります。またお客様は、お客様がすべてのまたは一部の開発環境を異なる場所の外部ユーザーに委託するケースにおいて開発テスト環境は完全かつ正確にライセンスを保有することを確認する必要があります。お客様は、すべての外部ユーザー (例: ソリューション プロバイダー、受託企業、海外開発センター) 向けの Visual Studio サブスクリプションの割り当てを記録する必要があります。また、お客様は外部ユーザーに割り当てたすべてのサブスクリプションについてその使用状況の報告を求められる場合があります。

例: ある外部の受託業者が、顧客企業の開発チームで一時的に作業に加わることになっています。顧客企業の開発チームの各メンバーは、Visual Studio Enterprise サブスクリプションを所有しています。受託企業の外部ユーザーが既存のチーム メンバーと同様に Visual Studio Enterprise サブスクリプションを所有している場合は開発環境のソフトウェアを使用できます。 Visual Studio サブスクリプションを所有していない場合や、所有している Visual Studio サブスクリプションのレベルが低く、開発チームで使用するソフトウェアすべてを使用する権利が含まれていない場合は、次のいずれかの対応が必要です。

- 外部ユーザーは、適切な (上位レベルの) Visual Studio サブスクリプションを取得する必要があります。
- その委託元の組織では、契約期間中に予備の (割り当てられていない) Visual Studio サブスクリプション (外部ユーザーが使用する必要があるソフトウェアを含むレベル) の 1 つを外部ユーザーに割り当てる必要があります。

また、外部のユーザーが顧客企業の Team Foundation Server を使用する場合、顧客企業はその外部ユーザーが使用するための Team Foundation Server CAL を提供する必要があります。この場合、CAL を別途購入するか、Visual Studio サブスクリプションに含まれる CAL を外部ユーザーに一時的に割り当てることになります。 Team Foundation Server の CAL は、同じ組織が入手した Team Foundation Server にアクセスする場合のみ有効です。

マイクロソフト パートナー ネットワーク (MPN) を通した Visual Studio サブスクリプション

マイクロソフト パートナー ネットワークを通じて提供される Visual Studio サブスクリプションは、コンサルティング サービス、パッケージ アプリケーションの特定顧客へのカスタマイズ、特定顧客のカスタム アプリケーションの構築など、報酬として直接的な売上を創出する活動に使うことはできません。

例: ある外部の受託業者が、顧客企業の開発チームで一時的に作業に加わることになっています。その外部の受託 業者は Visual Studio Enterprise サブスクリプションをマイクロソフト パートナー ネットワークの特典として所有 しています。Visual Studio サブスクリプションは MPN 特典として取得したためコンサルティング サービスに利用 できず、次のいずれかの対応が必要です。



- 受託業者が Visual Studio サブスクリプションをこのサービス提供のために購入します。
- 顧客企業の開発チームが購入した Visual Studio サブスクリプションのうち、予備の (割り当てられていない) サブスクリプション (使用予定のソフトウェアを含む十分なレベルのサブスクリプション) の 1 つを、契約の期間中だけ受託業者に割り当てます。

プロダクト キーとインストール ソフトウェア

ソフトウェアを正規の公開元 (サブスクライバー ダウンロード、ボリューム ライセンス サービス センター、正規のマイクロソフト DVD など) から取得しており、そのソフトウェア製品がユーザーの Visual Studio サブスクリプションで提供されている限り、Visual Studio サブスクライバーは任意のインストール ソフトウェアを使用できます。たとえば、Visual Studio サブスクライバーは、テスト ラボに Windows をインストールする際に、所属する組織のボリューム ライセンス メディアを使用できます。ボリューム ライセンスのプロダクト キーは、サブスクライバー ダウンロードを通じて入手できるキーよりもライセンス認証の上限数が多いので、この方法では利便性が高くなることがあります。

サブスクライバー ダウンロードから入手したが、運用ライセンスのあるソフトウェアの使用

完全にテストされたアプリケーションを実行するサーバーを配置するには、運用環境に直接移行する方が都合が良いことがよくあります。Visual Studio サブスクリプションのライセンスはユーザー単位で提供され、一般には開発とテストの目的に限られているため、このような運用用途の場合、(Windows Server ライセンスやクライアント アクセスライセンスなどの製品の) 通常のライセンスを取得する必要があります。ただし、そのソフトウェアを運用環境で使用するためのライセンスが Visual Studio サブスクリプション以外から取得されている場合には、インストールされるソフトウェアやそのライセンス認証に使用されるプロダクト キーが場合によってはサブスクライバー ダウンロードから入手したものでもかまいません。

ソフトウェア アクティベーション

サブスクライバー ダウンロードを通じて提供される多くのソフトウェア製品は、アクティベーションが必要です。アクティベーションとは、マイクロソフトのサーバーにオンライン接続することによって、インストールするソフトウェアが正規のマイクロソフト ソフトウェアである (かつ破損したコピーではない) ことを検証するプロセスです。アクティベーションは、プロダクト キーを入力し、インストールする製品が検証された後に行われます。アクティベーションとライセンス付与を混同しないように注意してください。アクティベーションは、(Visual Studio サブスクリプションを通じて提供される Windows 8 などの) 使用者が製品を使用するライセンスが付与されているかどうかを判断したり、(アプリケーションの開発目的に Windows 8 を使用するなど) 使用者がライセンスで許可された方法でソフトウェアを使用しているかどうかを判断したりする手段ではありません。詳細については、「プロダクト キーとアクティブ化」を参照してください。



Visual Studio Team Foundation Server 2017 のライ

センス

Microsoft Visual Studio Team Foundation Server 2017 は、マイクロソフトのアプリケーション ライフサイクル管理 (ALM) ソリューションの根幹を成し、バージョン コントロール、作業項目トラッキング、レポートの作成、ビルドの自動化など、主要なサービスを提供します。Team Foundation Server は、Visual Studio 2017 の開発ツールと密接に統合されているので、ソフトウェアの設計、ビルド、テスト、配置の全プロセスで、組織間でより効果的なコミュニケーションやコラボレーションを実現するために役立ち、最終的には、個人とチームの生産性の向上、品質の向上、アプリケーション ライフサイクルの詳細を把握できるようになります。

マイクロソフトでは、Team Foundation Server のライセンスをサーバー/クライアント アクセス ライセンス (CAL) ライセンス モデルに従って提供しています。つまり、組織は (サーバーである) Team Foundation Server の実行インス タンスごとに 1 つのライセンスを所有している必要があり、いくつか例外はありますが、Team Foundation Server に アクセスするユーザーまたはデバイスごとに 1 つの Team Foundation Server 2017 CAL を所有する必要があります。

Visual Studio Team Foundation Server 2017 の入手

Visual Studio Team Foundation Server 2017 は、次の 3 とおりの方法で入手できます。

- Visual Studio サブスクリプション: Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、Visual Studio Test Professional サブスクリプション、MSDN Platforms、およびすべての Visual Studio クラウドのサブスクライバーは、Team Foundation Server 2017 をダウンロードしてインスタンスを 1 つ配置できます。同じ Visual Studio サブスクライバーに、各自の組織内での使用に有効な Team Foundation Server 2017 User CAL が付与されます (他の組織によって取得された Team Foundation Server に対しては使用できません)。
- ボリューム ライセンス: Team Foundation Server は、前出の「購入方法」で説明されているように、マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムから提供されます。
- リテール製品: Microsoft Store でオンライン購入した Team Foundation Server 2017 では、5 ユーザーまで、
 Team Foundation Server 2017 CAL なしで、このソフトウェアの同じインスタンスにアクセスできます。6 人目以降は、各ユーザーに CAL が必要です。

例: ある組織では、Team Foundation Server 2017 のリテール製品のサーバー ライセンスを 2 本購入しました。この組織では 10 名が Team Foundation Server の 1 インスタンス (2 つのうちのもう 1 つのサーバー ライセンスは現在使用されていない) にアクセスする必要があり、どのユーザーも Visual Studio サブスクリプションを保持していません。この Team Foundation Server の単一インスタンスにアクセスするユーザーのうち 5 人には、CAL が必要ないため、この組織で購入が必要な CAL は、残りの 5 人分のみです。

または、購入した 2 つの Team Foundation Server 2017 のインスタンスを両方ともインストールした場合、一方のインスタンスを 5 人が使用し、もう一方のインスタンスを残りの 5 人が使用することができます。この場合、この組織では、CAL を購入する必要はありません。



このセクションでは、Team Foundation Server 2017 ライセンスの条件のみを記載していますが、これらの条件は特に断りがない限り、無料製品である Team Foundation Server 2017 Express にも適用されます (ただし、Team Foundation Server 2017 Express に含まれない機能を除く)。

Team Foundation Server のライセンスに関する一般的なガイダンス

Team Foundation Server のライセンスを計画するにあたり、次のような理解すべきポイントがあります。

- 取得した Team Foundation Server 2017 のサーバー ライセンスを、1 台のサーバーに 1 つずつ割り当てる必要があります。ライセンスを割り当てたサーバー上の物理または仮想オペレーティング システム環境 (OSE) 1 つにつき、Team Foundation Server のインスタンス 1 つを実行できます。
- Team Foundation Server のライセンスには、任意の数の (物理または仮想) コンピューターで実行できる、特定の追加ソフトウェアが含まれています。追加のソフトウェアは、次のとおりです。
- Team Foundation ビルド サービス (ビルド サーバーの実行に使用)
- チーム エクスプローラー (Visual Studio とインストールされ、Team Foundation Server への接続に使用)
- Team Foundation Server 2017 を実行するコンピューターごとに、オペレーティング システム ライセンスを 取得する必要があり、その他の追加ソフトウェアや Team Foundation Server 用の SQL Server データベースも同 様にライセンスを取得する必要があります。 Visual Studio サブスクリプションの一環として Team Foundation Server の使用権は付与されていても、オペレーティング システムのライセンスは取得する必要があります。 Windows Server ベースの配置では、サーバー/CAL モデルに従って Windows Server のライセンスを取得した場 合、(読み取りまたは書き込み操作により) Team Foundation Server のデータにアクセスするすべてのユーザー またはデバイスには Windows Server CAL も必要です。
- Microsoft SQL Server 2016 Standard の1インスタンスを、Team Foundation Server 2017 のデータベースとして使用できます。ただし、Team Foundation Server 2017 Express では SQL Server 2016 Express を使用するのでそれを除きます。Team Foundation Server 2017 では、データリポジトリとして Microsoft SQL Server が使用され、Team Foundation Server 2017 のサーバー ライセンスごとに 1 つの SQL Server 2016 Standard インスタンスを配置する権利が提供されます。これは、独立した SQL Server ライセンスではありません。この SQL Server のインスタンスは、別のサーバーで実行できますが、使用できるのは Team Foundation Server のみで、他の目的には使用できません。Team Foundation Server 以外の目的で SQL Server を使用する場合は、その使用を認めるライセンスを別途取得する必要があります。
- SQL Server Enterprise を Team Foundation Server 2017 用に使用することもできますが、別途 SQL Server Enterprise のライセンスを取得する必要があります。 SQL Server の他のエディション (Enterprise など) を Team Foundation Server 2017 データベースとして使用する場合は、そのエディションのライセンスを別途取得する必要があります。
- Team Foundation Server のライセンスにより提供される SQL Server を使用している場合、Team Foundation Server 2017 の SQL Server Reporting Services には、SQL Server CAL なしでアクセスできます。通常、SQL Server Reporting Services には SQL Server CAL が別途必要ですが、運用する SQL Server が Team Foundation Server のライセンスで提供されているバージョンとエディション (つまり SQL Server 2016 Standard) である か、コア ライセンスとは別にライセンスが取得されている限り、SQL Server CAL がなくても Team Foundation



Server 2017 ライセンスを使って Team Foundation Server 2017 のレポートを利用できます。どのような場合でも、Team Foundation Server のレポートのみを利用するユーザーには、Team Foundation Server CAL は必要ありません。

Team Foundation Server のサーバー ライセンス要件

Team Foundation Server ライセンスを 1 つ取得するごとに、1 つの物理オペレーティング システム環境または仮想オペレーティング システム環境で、サーバー ソフトウェアのインスタンスを 1 つ実行できます。ソフトウェアを実行する前に、Team Foundation Server のライセンスをサーバーの 1 つに割り当てる必要があります。

サーバー ライセンスの再割り当て

Team Foundation Server 2017 のライセンスは別のサーバーに再割り当てすることができますが、前回の割り当てから 90 日以内は再割り当てすることができません。ただし、永続的なハードウェア障害が発生している場合は、前回の割り当てからの経過日数がこれより少なくても再割り当てできます。

ビルド サーバーでの Visual Studio の使用

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、またはいずれかの Visual Studio クラウド サブスクリプションのライセンスが付与されたユーザーが 1名以上いる場合、Visual Studio を Team Foundation Server 2017 ビルド サービスの一部としてインストールできます。この方法を使うと、ビルドの 実行につながる操作を行うユーザーごとに、ビルド サーバー上で実行される Visual Studio のライセンスを購入する必要がありません。

Team Foundation Server のクライアント ライセンス要件

例外はありますが、直接間接を問わず、Team Foundation Server にアクセスするユーザーまたはデバイスごとに、 User CAL または Device CAL が必要です。

クライアント アクセス ライセンスが不要な状況

Team Foundation Server CAL は、次のシナリオでは必要ありません。

- 任意のインターフェイスから作業項目を入力し、あらゆる作業項目を表示および編集する
- Team Foundation Server のレポートにアクセスする。Team Foundation Server SQL データ ウェアハウスから 取得されたか、SQL Server Analysis Services から出力された読み取り専用データはレポートになりますが、 Team Foundation Server API を呼び出すカスタム レポートを作成したり、そのデータを他のデータ ソースと結合したりすることもできます。
- Microsoft System Center Operations Manager を使用して Team Foundation Server にアクセスする。運用スタッフが運用環境で発生した運用上の問題を登録して、開発チームに割り当てると、Team Foundation Server に作業項目が自動的に作成されます。



- Feedback Client for TFS を使用して Team Foundation Server にアクセスする。ユーザーがアプリケーション についてのフィードバックを Team Foundation Server に提供できます。
- Team Foundation Server の外部に手動で頒布された静的データを表示する。
- チーム プロジェクトやプロジェクト コレクションの作成などのシステム管理のみを目的として、最大 2 つまでのデバイスまたは 2 人までのユーザーが Team Foundation Server にアクセスする場合。
- リテール製品として Team Foundation Server を購入しているか、無料の Team Foundation Server Express で最大5人のユーザーが使用する場合。ただし、6人目以降のユーザーには CAL が必要です。
- プールされた接続を使用してインテグレーションされた他のアプリケーションもしくはサービスから Visual Studio Team Foundation Server にアクセスする場合。これによって、顧客チケット管理ソリューションや他の ALM ソリューションなどの業務アプリケーションと TFS のインテグレーションのためのライセンスの問題が解決できます。
- Team Foundation Server 2017 プロキシ経由で Team Foundation Service にアクセスする。これにより、サービスにアクセスするための Team Foundation Server 2017 プロキシを配置することで Team Foundation Service の利用者は帯域の待ち時間の問題を解決できます。
- リリース管理のプロセスの一部として承認をする。

ただし、いずれの場合も、使用状況に応じて、ユーザーには Windows Server の CAL (Windows Server が Team Foundation Server のオペレーティング システムとして使われ、Windows Server が Server/CAL モデルでライセンス されている場合)、SharePoint Server の CAL (SharePoint Server を実行する Team Foundation Server プロジェクト ポータルにユーザーがアクセスする場合)、または SQL Server の CAL (Team Foundation Server が SQL Server 2014 Standard 以外のバージョンまたはエディションの SQL Server を使用する場合) が必要です。

CAL 以外のライセンスも必要とするサーバー機能

Team Foundation Server 2017 Test Management または Package Management の機能を使用するには、特定レベルの Visual Studio サブスクリプションを使用するか、あるいは Visual Studio Marketplace を通じて購入する必要があります。CAL だけではこれらの機能を使用できません。

機能	対象
Test Management	 Visual Studio Enterprise サブスクライバー (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プランまたは月間プラン) Visual Studio Test Professional サブスクリプションのサブスクライバー MSDN Platforms サブスクライバー 有料 Test Manager (英語) ユーザー
Package Management	 Visual Studio Enterprise サブスクライバー (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プランまたは月間プラン) 有料 Package Management (英語) ユーザー



Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、Visual Studio Enterprise (月間プラン)、MSDN Platforms、または Visual Studio Test Professional サブスクリプションが自身の組織で付与されている外部ユーザーは、他の組織で実行されている Team Foundation Server の上記の機能にもアクセスできます。ただし、このようなユーザーの一人ひとりに、Team Foundation Server のライセンスを保持している組織によって購入された Team Foundation Server CAL が割り当てられている必要があります。

ユーザー CAL とデバイス CAL のいずれかを選択

ユーザー CAL、デバイス CAL、またはこれらを組み合わせて購入できます。ユーザー CAL は、1 人のユーザーが複数のデバイスまたは複数の場所から Team Foundation Server にアクセスする場合に適しています。デバイス CAL は、通常、複数のユーザーが 1 つのデバイスを共有して Team Foundation Server にアクセスする場合に使用します。デバイス CAL では複数のユーザーが 1 つのデバイスを使用できますが、同時に複数のユーザーが使用することはできません。

例: Team Foundation Server についての講義を行っている教育機関では、Team Foundation Server のライセンスが必要です。講義で使用するコンピューターごとにデバイス CAL を 1 つ購入できます。これらのコンピューターにアクセスする受講生の数に制限はありません。各デバイス CAL では、ユーザー数が制限されることなく、1 つのデバイスから Team Foundation Server へのアクセスが許可されます。ただし、1 つのデバイスから同時にアクセスできるユーザーは 1 人です。

多重化やプーリングを使用しても必要な CAL 数は変わらない

Team Foundation Server に直接アクセスするユーザーやデバイスの数を削減するハードウェアやソフトウェア("多重化" または "プーリング" と呼ばれます)を使用しても、必要な Team Foundation Server CAL の数は減少しません。
Team Foundation Server になんらかの方法でアクセスするエンド ユーザーまたはデバイス(前述の「クライアント アクセス ライセンスが不要な状況」で説明したシナリオを除く)には、ソフトウェアに直接または間接的に接続するかどうかにかかわらず、適切なライセンスが必要です。

例 1: ある組織では、Web サイトからユーザーが作業項目の追加、バグの解決、またはビルドの開始を実行できる方法で、Team Foundation Server に接続したイントラネット Web サイトを実装しています。Team Foundation Server に直接接続するのは 1 つのデバイス (Web サーバー) だけですが、不具合を記録し、改善を求める以外の目的で、この Web サイトを使って Team Foundation Server にアクセスするユーザー一人ひとりに CAL が必要です (デバイス CAL では、特定のデバイスにログインしているユーザーが 1 人だけサポートされるので、ターミナル サービスを実行しているサーバーにはデバイス CAL を使用できません)。同じ物理 Web サーバー上で実行されていても Team Foundation Server にアクセスしない別の Web サイトにアクセスする場合、CAL は必要ありません。

例 2: ターミナル サービスを実行しているサーバーに同時に複数のユーザーがリモート接続して、開発環境にアクセスしています。これらの複数のユーザーは 1 つのデバイスを "共有" していますが、各ユーザーに CAL が必要です (デバイス CAL では、特定のデバイスにログインしているユーザーが 1 人だけサポートされるので、ターミナルサービスを実行しているサーバーにはデバイス CAL を使用できません)。

Release Management

Team Foundation Server 2017 に新しい Web ベース機能 Release Management が追加されました。Release Management は Visual Studio サブスクライバーを含むすべてのユーザーが Team Foundation Server CAL で利用可能



なリリース管理/構成ソリューションです。ユーザー (ステークホルダーとして構成されたアクセス レベルを持つユーザー) は料金を支払うことなくリリースを承認できます。

各 Team Foundation Server では、サーバー ライセンスの一部に含まれる Release Management を使用することで、1 つのリリースを一度に配置できます。次の各ソリューションにおいて、さらに追加で 1 つの同時配置が可能です。 Visual Studio Enterprise サブスクライバー (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プランまたは月間プラン)、有料の Visual Studio Team Services のビルドおよびリリース用プライベート パイプライン。

機能	内容
Release Management 12	• Team Foundation Server 2017 に含まれる同時配置は 1つ
よる同時配置	以下のそれぞれのソリューションにおいて、さらに追加で同時配置が可能
	• Visual Studio Enterprise サブスクライバー (Visual Studio Enterprise サブスクリプシ
	ョン、Visual Studio Enterprise (年間プランまたは月間プラン)
	• 有料 Private Pipelines (英語)

Release Management の詳細については、https://www.visualstudio.com/ja/team-services/release-management/ をご確認ください。

Team Foundation Server のダウングレード権

Visual Studio Team Foundation Server 2017 のダウングレード権を提供しています。これにより、ライセンス対象バージョンの Team Foundation Server 2017 の代わりに、Team Foundation Server の以前のバージョン (Team Foundation Server 2005、2008、2010、2012、2013、2015 など)と、Team Foundation Server をサポートするデータベースとして SQL Server 2016 Standard より前のバージョンを使用できます。ダウングレード権は Team Foundation Server CAL にも適用されるため、Team Foundation Server 2017 の CAL を使用して、Team Foundation Server の以前のバージョンにアクセスできます。

ソフトウェア アシュアランスが有効な Team Foundation Server

ソフトウェア アシュアランスの標準の特典として、ボリューム ライセンス プログラムでの Visual Studio Team Foundation Server 2017 の提供が開始された時点で、ソフトウェア アシュアランスが有効な Visual Studio Team Foundation Server 2010 のライセンスと CAL を所有していた場合、所有しているサーバー ライセンスと CAL は Visual Studio Team Foundation Server 2017 のサーバー ライセンスと CAL になります。これに該当しない場合に、 Visual Studio Team Foundation Server 2017 にアクセスするには Visual Studio Team Foundation Server 2017 のサーバー ライセンスと CAL を購入する必要があります。

Visual Studio Team Services からローカルのビルド サーバーにアクセスする

ビルドを実行する Visual Studio Team Services アカウントを、Team Foundation ビルド サービスを実行しているローカル サーバーに設定することができます。ビルドを実行するサーバーに必要なライセンス要件は、ローカルの Team



Foundation Server からコマンドを受ける場合と Visual Studio Team Services から受ける場合に違いはありません。少なくとも Team Foundation Server ライセンスとオペレーティングシステムのライセンス (さらにその CAL)、ビルドの操作をするすべてのユーザーに Team Foundation Server CAL は必要です。すなわち、ローカルのビルド サーバーでのビルドを開始することとなる Visual Studio Team Services にコードをチェックインするユーザーにも Team Foundation Server の CAL が必要になります。 Visual Studio Team Services の有料ユーザーには、各ユーザーにつき 1つの Team Foundation Server CAL が提供されます。

Team Foundation Server へのアクセス方法

Team Foundation Server 2017 のデータには、次のような方法でアクセスできます。

- Visual Studio Team Explorer: Visual Studio Enterprise、Visual Studio Professional、Visual Studio Community (無料)、Visual Studio Test Professional に同梱されています。また、インターネットからダウンロードすることも可能です。Team Explorer はスタンドアロン クライアントとしてインストールすることもでき、任意の数のデバイスにインストールできます。
- Visual Studio Team Explorer Everywhere: Eclipse ベースの環境から Team Foundation Server に接続できます。
 Team Explorer Everywhere は無料です。
- Visual Studio Team Web Access: Team Explorer クライアントのブラウザー ベースのバージョンです。
- Microsoft Office Excel または Microsoft Office Project: Team Explorer に付属のこれらのプログラム用のアドインを使用して、Team Foundation Server にアクセスできます。
- PowerPoint Storyboarding アドイン (無料)
- プログラムからのアクセス: Team Foundation Server 2017 のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) やその他の方法でアクセスできます。

どの方法で Team Foundation Server にアクセスするとしても、前出の「クライアント アクセス ライセンスが不要な 状況」で示したシナリオを除いて、クライアントのライセンスを取得する必要があります。

配置オプション

企業では Team Foundation Server に備わっている柔軟性とスケーラビリティを利用して、あらゆる規模の開発チームをサポートできます。たとえば、Team Foundation Server は、デスクトップ環境、単一サーバー、または 2 層構成に配置できます。使用する手法にかかわらず、Team Foundation Server には、オペレーティング システムとデータベースが必要で、それぞれ固有のライセンス要件があります。

複数サーバー (2層)配置

Team Foundation Server 2017 は、2 層構成で配置できます。この構成では、一方の層で Team Foundation Server をホストし、もう一方の層でバックエンドの SQL Server をホストします。前述のとおり、それぞれの層のオペレーティング システムに別途ライセンスを取得する必要があり、取得した Team Foundation Server のライセンス 1 つにつき、SQL Server 2016 Standard のインスタンス 1 つを配置することができます。



• 例: ある組織では Team Foundation Server 2017 を 1 つの Windows Server 2016 R2 Enterprise に配置し、SQL Server 2016 Standard のデータベースを異なる Windows Server 2016 R2 Enterprise のインスタンス上に配置しました。この場合、1 つの Team Foundation Server 2017 サーバー ライセンスが使用 (Team Foundation Server と SQL Server データ層が集合的に含まれます) されますが、両方の Windows Server 2016 Enterprise サーバーにライセンスが必要となります。また、Team Foundation Server クライアント アクセス ライセンスも必要に応じて必要になります。

2 層構成で配置する場合、もう 1 つのアプリケーション層をウォーム スタンバイ モードまたはコールド スタンバイ モードにすることで、システムの信頼性を向上できます。ウォーム スタンバイ モードでは、フェールオーバー コンピューターが実行されていますが、フェールオーバー機能はシステム管理者が手動で有効にします。通常、コールドスタンバイ モードでは、管理者がシステムを起動してフェールオーバー機能を有効にしない限り、フェールオーバーシステムが実行されません。ウォーム スタンバイまたはコールド スタンバイのシナリオを検討している組織では、これらのモードを使用する代わりに、既定で両方のサーバーでフェールオーバー機能を有効にする負荷分散アプリケーション層を検討することもできます。

SQL Server クラスタリングをデータ層(この場合は 2 台のサーバーで構成されたデータ層)で使用すると、2 層構成の Team Foundation Server の可用性を向上できます。クラスタリングは SQL Server 2016 Standard 以上でサポートされている機能で、SQL Server の複数の物理インスタンスを 1 つの仮想インスタンスにまとめることで、高可用性を実現します。クラスター化された 2 台のサーバー構成では、サーバーごとに Windows Server と SQL Server 2016 のライセンスが必要ですが、Team Foundation Server CAL は追加で取得する必要はありません。SQL Server 2016 Standard を実行しているクラスターの各サーバーは SQL Server の個別のインスタンスと見なされるため、インスタンスの数に対応できる数の Team Foundation Server 2017 ライセンスを用意するか、SQL Server のライセンスを別途取得する必要があります。

Team Foundation ビルド サービス

Team Foundation Server のビルド自動化機能では、同じサーバーまたは別のシステムで自動ビルドを実行でき、ビルド処理の一環として品質テストやパフォーマンス テストを実行することもできます。"ビルド サーバー" の実装には、Team Foundation Server 2017 に付属のビルド エージェントを使用します。ビルド サーバーを Team Foundation Server を実行しているサーバーとは別のサーバーにするには、ビルド サーバーには Team Foundation Server CAL またはサーバー ライセンスは必要ありません。

Lab Management のライセンス

既存の Visual Studio アプリケーション ライフサイクル管理 (ALM) プラットフォームは、マイクロソフトの Visual Studio Lab Management ソリューションによって統合された Hyper-V ベースの仮想マシン管理へと拡張されます。 Lab Management は、ビルド、配置、テストの複雑なワークフローを自動化して、ビルド処理の最適化、リスクの軽減、およびリリースまでの時間の短縮を実現します。また、仮想環境のセットアップ、取り壊し、および元の状態へ戻すリストアに伴う、開発とテストのコストを削減するのに役立ちます。Lab Management は、開発、QA、および運用の間のコラボレーションを円滑にするので、ROI の向上やマイクロソフトの ALM ソリューション全体のメリットを実現するのに役立ちます。



Lab Management のコンポーネント

Lab Management の機能は、さまざまなソフトウェアが複数のマシン間で連携することで発揮されます。一般的な構成は、次のとおりです。

- 1. 仮想マシンのホスト:
 - a. オペレーティング システム: Windows Server 2008 R2 または 2012
 - b. その他のソフトウェア: System Center Virtual Machine Manager 2008 R2 または 2012
 - c. 仮想マシン上: Visual Studio Agents 2017

2. Team Foundation Server:

- a. オペレーティング システム: Windows Server 2008 R2 または 2012
- b. その他のソフトウェア: Visual Studio Team Foundation Server 2017、SQL Server 2016 Standard、および Visual Studio Test Controller 2017 (Visual Studio Agents 2017 に含まれ、Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、MSDN Platforms、および Visual Studio Test Professional サブスクリプションのサブスクライバーにこの使用権が提供されます)。

3. クライアント:

- a. オペレーティング システム: Windows 8、または Visual Studio ソフトウェアを実行できるその他のマイクロソフト オペレーティング システム
- b. その他のソフトウェア: Visual Studio Enterprise 2017 または Visual Studio Test Professional 2017

仮想マシンのホストと Team Foundation Server を集約することは可能ですが、パフォーマンスの点で理想的でない場合があります。また、Team Foundation Server を複数の層に配置するのが望ましい場合もあります (詳細については、「複数サーバー (2 層) 配置」を参照してください)。

Lab Management のライセンス

Team Foundation Server2017 で Lab Management の機能を利用するには、次のようなライセンスを取得する必要があります。

- 1. Microsoft Test Manager 2017 を使用してラボ環境を構成および管理する各ユーザーに、使用している製品に応じて Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、MSDN Platforms、または Visual Studio Test Professional サブスクリプションのいずれかのライセンスを付与する必要があります。Microsoft Test Manager は、Visual Studio Test Professional および Visual Studio Enterprise と一緒にインストールされます。仮想マシン上で動作する Visual Studio Agents 2017 (Microsoft Test Manager 2017 により作られ、Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2008 R2 または 2012 を使用している)を利用するには、Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise (年間プラン)、MSDN Platforms、または Visual Studio Test Professional サブスクリプションのライセンスが必要です。
- 2. **Team Foundation Server** を実行するオペレーティング システムのライセンスが必要です。Team Foundation Server 2017 の使用権 (SQL Server 2016 Standard の使用権を含む) は、ほとんどの Visual Studio サブスクライバーに提供されます (詳細については、「<u>Visual Studio Team Foundation Server 2017 のライセンス</u>」を参照してください。ここには、「<u>Team Foundation Server のクライアント ライセンス要件</u>」についての詳細も記載されています)。ただし、TFS 用のサーバー、ビルド サーバー、データベースなど (これらは、別のオペレーティング システムで運用可能)、Team Foundation Server の実行に使用されるオペレーティング システムについては、必ず別にライセンスを取得する必要があります。



3. 仮想マシンのホストにアクセスする各ユーザー (またはそのホスト上の仮想マシンにアクセスするユーザー) は、アプリケーションの開発やテストに使用するソフトウェアが含まれる Visual Studio サブスクリプション を所有している必要があります。これらのユーザーがラボ環境を作成する必要がない場合、または仮想マシン上で実行されている Visual Studio Agents を利用する必要がない場合は、下位レベルの Visual Studio サブスクリプションで十分である可能性があります。仮想マシンのホスト用のホスト オペレーティング システムである Windows Server 2008 R2 については、Visual Studio サブスクライバーのみがこのホストで実行されるソフトウェアを開発とテスト目的で使用するのであれば、別途ライセンスを取得する必要はありません。

付録

詳細情報

Visual Studio: www.microsoft.com/japan/visualstudio/

Visual Studio の購入: https://www.visualstudio.com/products/how-to-buy-vs

Visual Studio サブスクリプションのオプションと特典の比較: https://www.visualstudio.com/products/compare-visual-studio-2017-products-vs

Visual Studio の評価

各 Visual Studio 製品の 90 日間評価版は、http://www.visualstudio.com/ からダウンロードしてご利用いただけます。 Select プログラムまたは Enterprise Agreement プログラムでマイクロソフト ボリューム ライセンスをご利用のお客様は、60 日間は購入することなく、任意の Visual Studio 製品をダウンロード、およびインストールし、評価していただくことが可能です。評価版を使用して構築されたアプリケーションは、運用環境に配置できません。

Visual Studio Express 2017 製品

Visual Studio Express for Windows、Visual Studio Express for Web、Visual Studio Express for Windows Desktop など、さまざまな無償の開発ツールを入手できます。これらのツールは、Visual Studio Professional 2017 で使用可能な機能のサブセットを提供し、これらのプラットフォームを対象にしたアプリケーションの作成を目的として設計されています。Visual Studio Express 2017 の各製品のライセンスはユーザーごとに付与され、製品に含まれる使用権が適用されます。Visual Studio Express は、運用目的のアプリケーションの構築に使用できます。

ライセンストレーニング環境

Visual Studio などのマイクロソフト ソフトウェアのサービスのトレーニングをサードパーティに提供している組織 は、マイクロソフト パートナー ネットワークで <u>Learning (教育) コンピテンシー</u>を取得する必要があります。このコンピテンシーを取得することで、マイクロソフト パートナー ネットワークのメンバーシップの特典である個別の購入権やライセンスなど、パートナーに規則上問題なく使用できるソフトウェアの<u>クラスルーム ライセンス</u>の使用権を付与します。



Enterprise Agreement、Select Agreement、または Select Plus Agreement に同意した組織は、組織内にある専用のトレーニング機関でマイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムから提供される製品のライセンスを最大 20 個まで使用できます。

以上の 2 つのオプション以外にも、お客様は Microsoft.com から入手可能な評価版を使用したり、トレーニングで使用されるソフトウェアのライセンスを購入したりする必要があります。

以前の Visual Studio サブスクリプションからの移行

Visual Studio の過去のリリースでは、Visual Studio サブスクリプションの提供サービスが変更され、その時点で既にサブスクライバーだったお客様が新しいサブスクリプション レベル (多くの場合、大幅に強化された機能と特典を提供) に移行されました。

Visual Studio 2015

Visual Studio Ultimate with MSDN または Visual Studio Premium with MSDN が有効なお客様は自動的に Visual Studio Enterprise に移行されました。

MSDN OS の販売は終了しました。有効な MSDN OS のサブスクライバーは Visual Studio Professional サブスクリプションに更新できます。

Visual Studio 2013

Visual Studio 2013 のリリース時点では、Visual Studio サブスクリプションのレベルの変更はありません。

Visual Studio 2012

2012 年 8 月時点で有効な Visual Studio Professional with MSDN Embedded (「MSDN Embedded」) をお持ちのお客様は、自動的に Visual Studio Professional に移行されています。その他すべてのサブスクリプションは、それぞれの後継のサブスクリプションに直接移行されます。

2010 バージョンのサブスクリプション レベル	2012 年 8 月の移行による、2012 バージョンのサブスクリプ
	ション レベル
Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN	Visual Studio Ultimate 2012 with MSDN
Visual Studio 2010 Premium with MSDN	Visual Studio Premium 2012 with MSDN
Visual Studio Test Professional 2010 with MSDN	Visual Studio Test Professional 2012 with MSDN
Visual Studio 2010 Professional with MSDN	Visual Studio Professional 2012 with MSDN
Visual Studio 2010 Professional with MSDN Embedded	Visual Studio Professional 2012 with MSDN
MSDN Operating Systems	MSDN Operating Systems

Visual Studio 2010

2010 年 4 月に行われた Visual Studio 2010 のリリース時に有効な Visual Studio サブスクリプションを所有していた お客様は、次の原則に従って移行されました。

2008 バージョンのサブスクリプション	レベル 2010 年 4 月の移行による、2010 バージョンのサブスクリプ
	ション レベル



Visual Studio Team System 2008 Team Suite with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio Team System 2008 Architecture Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio Team System 2008 Development Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio Team System 2008 Test Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio Team System 2008 Database Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Premium with MSDN
Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN Professional	Visual Studio 2010 Professional with MSDN
MSDN Operating Systems	MSDN Operating Systems

この移行は、"究極のオファー"と呼ばれました。詳細については、

http://msdn.microsoft.com/subscriptions/ff625864.aspx を参照してください。

Visual Studio 2008

Visual Studio 2008 の製品ラインでは特別な移行は行われず、2005 バージョンのサブスクリプションは 2008 バージョンの後継サブスクリプションに一対一で対応しました。

Visual Studio 2005	Visual Studio 2008
Visual Studio 2005 Team Suite with MSDN Premium	Visual Studio Team System 2008 Team Suite with MSDN
	Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Software	Visual Studio Team System 2008 Architecture Edition with
Architects with MSDN Premium	MSDN Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Software	Visual Studio Team System 2008 Development Edition
Developers with MSDN Premium	with MSDN Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Software Testers	Visual Studio Team System 2008 Test Edition with MSDN
with MSDN Premium	Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Database	Visual Studio Team System 2008 Database Edition with
Professionals with MSDN Premium	MSDN Premium
Visual Studio 2005 Professional Edition with MSDN	Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN
Premium	Premium
Visual Studio 2005 Professional Edition with MSDN	Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN
Professional	Professional
MSDN Operating Systems	MSDN Operating Systems

Visual Studio 2005

Visual Studio 2005 では、Visual Studio Team System ブランドでのマイクロソフトの ALM 製品のリリースなど、大規模な移行が行われました。

Visual Studio 2005 以前の Visual Studio サブスクリ	移行パス
プション レベル	
MSDN Universal	お客様は、以下の Visual Studio 2005 Team Edition ロー
	ルから選択できました。
	Visual Studio 2005 Team Edition for Software
	Architects with MSDN Premium



	 Visual Studio 2005 Team Edition for Software Developers with MSDN Premium Visual Studio 2005 Team Edition for Software Testers with MSDN Premium Visual Studio 2005 Team Edition for Database Professionals with MSDN Premium
MSDN Enterprise	すべての有効な MSDN Enterprise サブスクライバーは、
	自動的に Visual Studio 2005 Team Edition for Software
	Developers with MSDN Premium に移行されました。
MSDN Professional	すべての有効な MSDN Professional サブスクライバー
	は、自動的に Visual Studio 2005 Professional Edition with
	MSDN Professional に移行されました。

ライセンス ホワイトペーパーの変更履歴

発行日	変更点
2017 年 3 月	Visual Studio 2017 のライセンスに関する初版

